



ならしんからのお便りマガジン

ならつう

2016
autumn



＜関ヶ原合戦図屏風＞関ヶ原町歴史民俗資料館 所蔵

関ヶ原に散った猛将、嶋左近

平群町ゆかりの戦国武将の軌跡を辿る

すこやかライブ講座 腰痛体操で筋肉を鍛える

季節のガーデニング チューリップ

関ヶ原の戦いに散った、猛将・嶋左近

戦国時代に活躍した平群町ゆかりの武将、嶋左近。関ヶ原の戦いで奮戦し、家康さえも恐れたという猛将の軌跡を辿ります。



嶋左近清興のルーツは 大和国平群郡の国人

嶋左近清興（？～1600）は、大和国平群郡の国人（地方豪族）嶋氏の出自で現在の生駒郡平群町を本拠とし、代々「左近」の官職名を名乗った。史料が少なく非常に謎の多い武将だが、大和の筒井順慶や豊臣家の石田三成に仕えて勇名を轟かせた。特に関ヶ原の戦いで奮戦し、現在も戦国武将の中で人気の高い人物である。

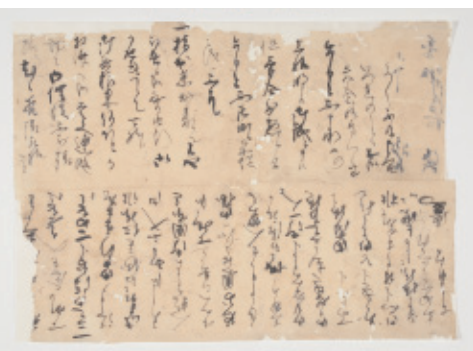
左近の名が世に知られるようになったのは、松永久秀との戦いである。大和への支配を広げた久秀は、永禄二年（1559）信貴山城に入城。その後

打倒家康を掲げ、遂に三成が挙兵

慶長三年（1598）、豊臣秀吉が死去すると、豊臣家五大老の筆頭・徳川家康が勢力を拡大し始める。伏見城の家康と、大坂の前田利家・宇喜多秀家・毛利輝元らの大老および石田三成

嶋左近書状 東義久宛（個人蔵）

常陸国・佐竹氏の一族・東義久に宛てた嶋左近直筆の書状。大阪府内の民家から発見され、貴重な資料として注目を集めている。



豊臣政権へ向かう。翌年には筒井順慶が死去。後を継いだ定次の国替えに伴って左近も伊賀上野へ移るが、やがて筒井家を去る。その後浪人になったとも秀吉の直臣扱いになったとも言われ、三成の家臣になるまでの経緯ははっきりしていない。しかし優れた武将として名を馳せた左近のもとには多くの大名から仕官の誘いがあったという。

三成に過ぎたるもの、嶋の左近と佐和山の城

左近を召し仕えた石田三成は秀吉の側近中の側近、少年の頃から秀吉に才覚を認められ、豊臣政権の中核として活躍した。若干二十六歳で従五位下治部少輔に任ぜられ、天正十八年（1590）には近江の佐和山城へ入城。左近も佐和山に屋敷を与えられ、検地奉行を務めたり、琵琶湖の内海に百間橋を架ける土木工事に携わるなど、

軍事のみならず治世面からも三成を支えて。一回り以上も年下の三成が三顧の礼をもつて左近を迎え入れた話は有名だ。左近は高名な武将であったから、三成は家禄四万石を折半した二万石を差し出したという。これを意気に感じた左近が三成と運命を共にすることを誓ったというが、残念ながら根柢のある話ではない。左近がいかに破格の待遇で迎えられたかを物語る話である。

「三成に過ぎたるものが二つあり、嶋の左近と佐和山の城」と語られたことも、左近が優秀な人材であったことを表している。見方を変えると三成の人望のなさを対比させる表現としても捉えられる。優れた行政能力を発揮するも、秀吉に忠実なあまり一部の武将から反発を買っていたことも事実である。慶長二年（1597）の朝鮮出兵では、加藤清正や黒田長政、福島正則といった武功派大名との間に確執を深めていった。

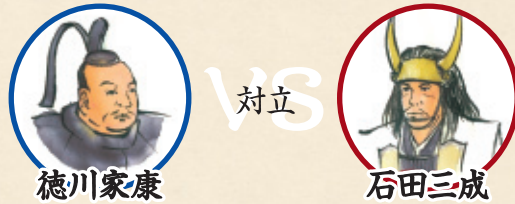
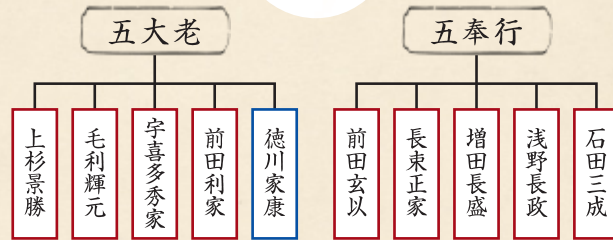
1分でわかる関ヶ原の戦い

石田三成を中心とする西軍と、徳川家康を大将とする東軍が激突した天下分け目の関ヶ原の戦いをわかりやすく解説。



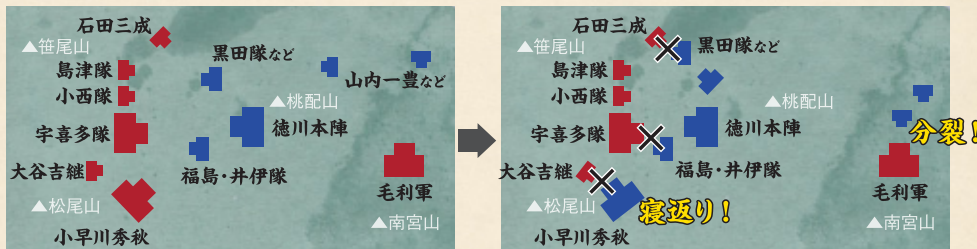
<戦いまでの経緯>

豊臣政権下における体制は右図の通り。秀吉の死後、家康の勢力拡大に伴い、豊臣家の内部対立が激化。NO.2の前田利家が亡くなると三成は福島正則や加藤清正らに暗殺されかけて失脚。家康が実権を握るが、これに対し豊臣政権を存続させようとする三成らの勢力が発怒する。家康が会津征伐に向け出兵すると、三成が挙兵。西から三成が、東から家康が攻め上がり、関ヶ原で激突する。



合戦のゆくえ

西軍は関ヶ原北西の笹尾山に本陣を構え、宇喜多秀家・大谷吉継・小西行長ら約八万。三成本陣の前衛には嶋左近が構えた。対する東軍は南東の桃配山に本陣を置き、黒田長政・福島正則・井伊直政らの諸隊約七万が陣を構えた。



前哨戦となる「杭瀬川の戦い」で士気を高めた西軍は、宇喜多隊が福島・井伊隊と激突。三成本陣でも攻撃が始まり、左近は黒田隊の銃撃により被弾する。石田・宇喜多・大谷・小西隊らが主力となって奮戦し、戦況は西軍有利に展開していった。

島津義弘の隊が加勢を拒否。毛利・小早川軍も依然として動かない。正午過ぎ、小早川秀秋が東軍に寝返って大谷軍を側面から襲撃。これを機に西軍は総崩れし勝敗を決定づける。日本史上に残る合戦はわずか6時間で決着した。

ら五奉行は緊迫した状況にあった。利家の死を機に、朝鮮出兵での遺恨を抱く加藤清正ら七将は三成襲撃を計画。ところがこの窮地を救ったのが家康だった。家康は三成の佐和山城への贖居を条件に七将を思い留まらせ、前田利長らに暗殺計画の疑いをかけて処分。つまり巧妙に三成を政権中枢から退かせ、利家亡き後の前田家も屈服させたのである。翌慶長五年（1600）、家康は反徳川派の上杉景勝に謀叛の疑いをかけ、会津征伐へと赴く。

提案したという。史実は明らかではないが、いずれも三成は採用しなかった。関東を中心に大勢力を築く家康とは力の差も歴然としている。左近がどんな手を使っても倒さねばならないと考えたのは当然のことかもしれない。

家康が会津征伐へ出陣すると、三成は家康の罪を弾劾し挙兵する。8月1日には家康不在の伏見城を落城させ、決戦前日まで本営となる大垣城へ向かった。この報せを聞いた家康は会津征伐を中止。江戸城へ入り、決戦へ向け万全の態勢作りを専念した。

一方先発していた家康勢は美濃に進軍し攻撃を開始する。8月22日には竹鼻城を陥落。三成は島津義弘の軍勢を向かわせその猛攻に備えたが、河渡川の戦いでも敗れたと知ると、島津隊を置き去りにしたまま直ちに大垣城へ退却したという。関ヶ原において最後まで陣を動かなかった島津義弘は、この時点において三成配下で戦う戦意を喪失していたのかもしれない。

西軍の士気を高めた杭瀬川の戦い

9月14日、遂に家康が東軍の本陣・美濃赤坂に到着。家康着陣の報せは三成率いる西軍を少なからず動揺させた。左近はこの動揺を払拭するため、三成にある奇襲作戦を提案する。

「もはやこの動揺を鎮めるためには、まず一戦におよんでこちらの戦力を示すほかありません。敵を誘い出して迎撃しましょう」と、蒲生郷舎らとわずか五百の兵を率いて大垣城を出陣する。

左近は予め一隊を草むらに隠しておき、自身は杭瀬川を渡り、東軍の中村隊の前で刈田をして敵を誘った。案の定相手が攻撃してくると、応戦しきれないと見せ川を渡って退却。相手が川を渡って追撃に出て来ると、草むらに隠れていた伏兵が現れて退路を断ち、敗走と見せかけた兵も反転して挟み撃ちしたのだ。これを見た有馬隊も参戦。両隊は思わぬ激戦に巻き込まれ、大敗

いよいよ関ヶ原で 東西両軍が激突

する。左近の計略にはまったと知った家康は怒って兵を撤収させたというが、西軍はやつと一矢を報いることができ、決戦に向け大いに士気を高めた。これが左近の武功の中で最も有名な「杭瀬川の戦い」である。

9月15日、両軍はいよいよ決戦の時を迎える。三成を中心とする西軍は毛利秀元、宇喜多秀家、島津義弘、大谷吉継、小西行長、小早川秀秋らおよそ8万。対する東軍には福島正則、黒田長政、細川忠興、井伊直政などおよそ7万が集結した。四方を山に囲まれた高原盆地の関ヶ原には、先に到着した三成勢が山麓に布陣。盆地内部に入った東軍を囲い込むという状況は、圧倒的に西軍が有利だった。

午前8時、東軍の井伊隊が宇喜多隊に向けて攻撃を開始。福島隊も宇喜多隊に発砲し、決戦の口火が切られた。

宇喜多隊の猛攻撃により東軍が相次いで撤退。東軍も粘り強く追撃し、激戦となっていく。

三成が本陣を置く笹尾山には嶋左近、蒲生郷舎が布陣。南の宇喜多隊周辺で大激戦となると、三成は突撃を命じた。

嶋・蒲生隊は、黒田長政らの諸隊に攻めかかっていく。この時の左近の突撃はすさまじく、敵の黒田軍兵士を後々まで震え上がらせるほどであったという。誰も左近の出で立ちを覚えておらず、まともに仰ぎ見ることができないほど恐ろしい男だったという話が「常山紀談」に記されている。

しかし長政は嶋隊を側面から銃撃。左近は被弾し重傷を負ってしまふ。戦いは熾烈を極め、西軍は大砲などを用いて東軍を迎え打ち、三成自身も戦場に繰り出し戦鬪を指揮した。

一進一退の攻防が続いていたが、西軍で戦鬪を行っているのは主に石田、宇喜多、小西、大谷隊など3万あまり。三成はまだ参戦していない武将に加勢

「杭瀬川の戦い」で活躍する嶋左近(中央左寄り黒い馬に騎乗した人物)。決戦の前哨戦となる戦いで相手に一矢を報いた左近は、西軍に勢いをもたらした。
 <関ヶ原合戦図屏風・右隻部分>
 行田市郷土博物館所蔵



転載不可

大谷隊が敗れると、東軍の総攻撃を受けた宇喜多・小西隊も総崩れし、勝敗をほぼ決定づけた。この時左近は大谷隊に属していた嫡子・新吉信勝の戦死も知らされていた。自らの死を覚悟した左近は、最後の力を振り絞って敵陣に突入する。

嶋左近清興、慶長五年九月十五日、関ヶ原笹尾山下に散る。享年不詳

嶋・蒲生隊が討たれると、石田隊は東軍の猛攻を押しきれず、三成は伊吹山方面へと敗走。取り残された島津隊1500人は敵中突破を試み、多くの犠牲を払いながらも退却した。

伝説の猛将を知る 新しい手がかり

こうして一大決戦は東軍が勝利し、戦乱の世に終止符が打たれた。作戦上の布陣では完全に西軍が有利だったが、肝心な時にその駒が動かず、寝返りが続出。三成が人心を掌握できず西軍をひとつにまとめきれなかったことは否

するよう狼煙を上げた。島津義弘の隊にも応援要請の使者を送るが、使者が下馬しなかった無礼を理由に応戦を拒否。三成は再三にわたって懇願するも義弘は応諾せず、この後も兵を動かすことはなかった。

一方南宮山の毛利秀元にも進軍を要請。ところが既に家康に内通していた吉川広家に阻まれ、動くことができなかった。西軍は毛利秀元ら約3万もの大軍を最後まで投入できなかったのがある。さらに松尾山に布陣する小早川勢も進軍の気配がない。西軍は一部が死力を尽くして戦っていたものの、兵力の半分以上が機能していなかった。

正午過ぎ、戦況が一変する。小早川隊1万5千の軍勢が松尾山を駆け下り、激鬪を繰り広げていた大谷隊へ攻めかかった。小早川秀秋が寝返ったのだ。吉継はこれを予測し予め兵を温存していたが、こうした布陣までが寝返って攻め込んできたためにたちまち壊滅状態に。自刃へと追い込まれていく。

めない。それでもわずか十九万石の大名・三成が二百五十五万石の大大名に挑み、倍近い東軍相手に互角の戦いをしたことは注目すべき点だ。それを戦術・戦術面で支えた左近の力も大きかったはずである。

左近はその後多くの歴史書や軍記で勇敢な武将として描かれるが、史料が少なく半ば伝説的な人物だった。しかし今回大阪で見つかった書状(P2)は、左近の実像を掴む貴重な手がかりのひとつとなった。書状は天正十八年(1590)、秀吉が北条氏を滅ぼした小田原攻めの直後に出されている。佐竹氏に対して常陸国の統治法と関東への国替えを拒否した織田信雄の処置について指示を与えており、三成配下で外交交渉も行っていたことを窺わせる。軍師としても能吏としても活躍し、三成の頼れる家臣であった嶋左近。謎多き武将は四百年以上経った現在も人々の興味をかき立てて止まない。

参考資料：「改訂版」平群谷の驍将嶋左近／坂本雅史著・平群史蹟を守る会

戦国大和ゆかりの信貴山をめぐる

「信ずべき、貴ぶべき山」として聖徳太子が名付けたという信貴山。山上には戦国武将・松永久秀が本格的な城を構えました。嶋左近が仕えた筒井順慶が大和の覇権を巡って争ったゆかりの城跡と山腹の朝護孫子寺を訪ねます。

信貴山城跡

松永久秀が入城し、東西550m、南北700m、奈良県で最大規模の山城を構えた。信長に背いた久秀は最期に信貴山城に立て籠もり、城に火を放って自刃した。



空鉢護法堂



空鉢護法堂

信貴山城があった場所に建つお堂。朝護孫子寺境内から朱塗りの鳥居が続く参道を登ること約25分、山頂(437m)からの眺望が素晴らしい。

玉蔵院

信貴山の宿坊として親しまれ、日本一大地蔵などを祀る。「浴油堂」では毎朝護摩祈禱が行われている。

TEL 0745-72-2881

成福院

融通殿に祀られる「如意宝珠(如意融通宝生尊)」は、無量の財宝を湧出するといわれる。「融通がきく」などの言葉はこの如意融通尊から由来。

TEL 0745-72-2581



奥の院

「汗かき毘沙門天王」と呼ばれるご本尊。その霊験はきわめてあらたか。



朝護孫子寺

信貴山の毘沙門さんとして親しまれ、軍神や財宝福徳などの守護神としても信仰されてきた。桜で有名だが秋の紅葉も必見。樹齢500年以上の大イチョウも見どころ。

TEL 0745-72-2277

アクセス JR・近鉄王寺駅から奈良交通バス 信貴山門行きで約22分、 信貴大橋バス停から徒歩5分



毘沙門天王が寅年、寅日、寅の刻に出現したことから、巨大なトラの張り子が鎮座。境内にもたくさんトラが祀られている。

開運橋

開運橋

全長約106m、幅約4mで日本最古のカンチレバーという珍しい構造を持つ橋。国の登録有形文化財に指定されている。

千手院

信貴山内で最も古い塔頭で、代々信貴山寺を代表する住職の住坊であった。銭亀堂には日本で唯一の金運招福の神、銭亀善神を祀る。

TEL 0745-72-4481



お客様と共に、街と共に 奈良信用金庫 龍田川支店 mapエリア外

信貴山城にお越しの際は、お近くのならしん龍田川支店にもお立ち寄りください。近鉄竜田川駅から徒歩約10分。国道168号線沿いにあります(駐車場10台)。

住所:生駒郡平群町椿井715-1
電話:0745-45-1311
定休日:土日祝
営業時間:9時~15時 ATM8時~22時
(土・日・祝日は17時まで)

ならしんホームページ

<http://www.narashin.co.jp/>

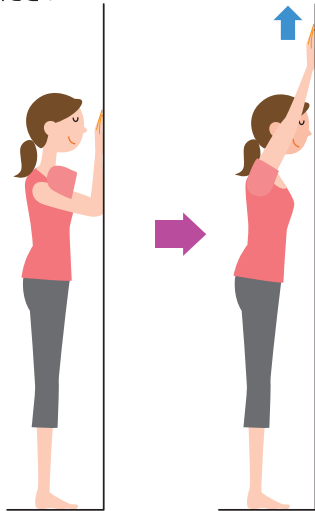
本誌「ならつう」のバックナンバーをWEBで公開しています。

高齢者もラクにできる腰痛体操 STEP1

腰を支える筋力が硬くならないよう、日常生活の中で体を動かす習慣をつけることが大切です。まずは初歩的なものから初めて、少しずつステップアップして腰廻りの筋力を鍛えましょう。

壁伝い背伸び

壁から10cm離れて両手両肘をつき、息を吐きながら両手を壁伝いに上げていき、体全体を十分に伸ばしたら、その姿勢を30秒保つ。
※腰部脊柱管狭窄症の方は注意して行ってください



上体前倒し

息を吐きながら体の力を抜いて上半身を前に倒し10秒保つ。

朝昼晩
5~10回



片脚あげ

背中をつけたまま片脚をあげて10秒保ち、腹筋と脚の筋肉を強くする。

朝昼晩
左右交互に
5~10回



背中壁押し

背中全体でゆっくりと壁をできるだけ強く押す。

朝昼晩
5~10回



腰痛の主な原因

過剰な動きや過度な運動

運動不足・筋肉の退化

内臓などの病気

長時間同じ姿勢でいる

骨の老化

85%以上が非特異的腰痛
腰痛の主な要因は上のイラストに示すような通り。85%以上は特定の原因を絞りきれない「非特異的腰痛」と言われています。例えば長時間同じ動作を続けていると腰の筋肉が緊張して血行が悪くなり、腰に痛みが起こりやくなります。過度な運動や急激な動作は腰に負担をかけるので要注意。また骨粗鬆症など骨の老化が圧迫骨折を招いたり、内臓の病気が痛みが発生する場合もあります。頑固な痛みが続く場合は直ちに医師の診断をおおいください。腰痛予防や再発防止のためには、日頃から適度な運動によって筋肉を強化し、腰への負担を減らすことが大切です。

日本人の国民病と言われるほど、多くの人に発症する腰痛。特に中高年の割合が高く、筋力の少ない女性がなりやすい傾向にあります。日頃から腰椎を保護する筋肉を鍛え、つらい腰痛を予防しましょう。

腰痛体操で筋肉を鍛え、腰痛を予防しよう①

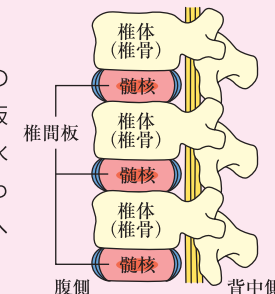
姿勢に関する10カ条

1. 背筋を伸ばす
2. おなかに力を入れて立つ
3. お尻をすぼめて立つ
4. 膝を軽く曲げて立つ
5. 椅子には深く腰掛け、机に近づいて座る
6. 膝を曲げて寝る
7. うつ伏せでは寝ない
8. 荷物に近づき、膝を曲げ腰を下ろして持ち上げる
9. 急に体をひねらない
10. 毎日欠かさず運動をする

普段から次のような10カ条を意識して生活しましょう。

椎間板の老化による腰痛

背骨は「椎骨」という24個の骨から成り、間にクッションのような働きをする軟骨性の椎間板を挟んでいます。椎間板は老化が早く、加齢と共に椎間板の中央にある髄核の水分が減少。外側の軟骨・繊維輪も薄くなって弾力性が失われていきます。そのためクッション効果が弱まり、腰椎への衝撃を緩和できなくなって腰痛を引き起こします。



季節のガーデニング チューリップ

春を彩る花としてお馴染み
育てやすく人気の高い、定番球根植物

栽培のポイント

植え付け



プランターに鉢底土を敷いて土を入れる。球根の向きを揃えて並べ、球根の頭が地表から2cmぐらいの深さになるよう植え付け水をやる。

育て方



日当たりの良い場所で育て、土の表面が乾いたらたっぷりと水を与える。蕾が見えたら水やりは根元に。

開花後



開花後は花首のところで切り取る。6月頃に葉が枯れ、茎が倒れたら球根を掘り上げ、風通しの良い日陰で保存。

特典

各店先着
10名様

ならしん各店窓口でガーデンピクプレゼント!「ならつう見ました」とお声かけください。

※数種類ありますが絵柄は選べません



栽培カレンダー

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

植え付け

肥料

乾燥に弱いので冬でもたっぷりのお水を。

開花期

球根
掘り上げ